

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
18

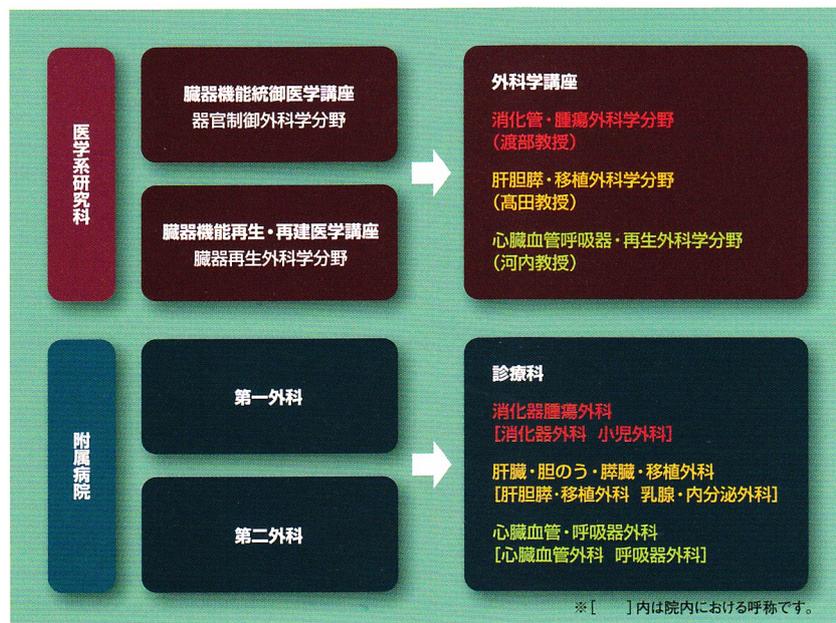
2009



患者から学び、患者に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

外科分野を再編。大講座制を導入し、診療内容の高度化と教育の充実を推進



これまで愛媛大学医学部の外科は第一外科(器官制御外科学)と第二外科(臓器再生外科学)の2つに分かれていましたが、どちらも消化管や呼吸器・血管を扱うなど多くの分野で重複し、ある意味では力が分散している状態でした。そこで今年7月より、第一外科と第二外科を統合して「外科学講座」を設置する大講座制とし、その中に「消化管・腫瘍外科学」「肝胆膵・移植外科学」「心臓血管呼吸器・再生外科学」という新たな3つの拠点を設置。それぞれに指導的立場のリーダー(渡部、高田、河内)を配置する新体制を導入しま

した。今まで分散していた力を効果的に集約したことで、各拠点の専門性がより高まり、「先進的医療の実践」や「臨床研究の推進」が図れると考えています。

消化管・腫瘍外科学は、胃がんや大腸がん特に注力し、早期がんの場合は患者さんの負担が少なく、術後1週間程度で退院できる「低侵襲手術」を責任を持って行います。非常に進行したがんの場合も、集学的治療により長期生存を目指しておりますので、ご相談ください。肝胆膵・移植外科学は、地域の医療機関では行えない高度な手術に積極的に着手。生体肝移

植は、すでにこれまで35例行っています。できるだけ早期に脳死肝移植の認定も受け、肝臓移植に関する四国の拠点となることを目指します。心臓血管呼吸器・再生外科学は全体を充実させ、小児・成人を問わず全ての心臓、大血管、呼吸器に対応していきたいと考えています。

この新体制導入に伴い、8月より附属病院の外科外来も「消化管」「小児」「肝胆膵」「乳腺・内分泌」「心臓血管」「呼吸器」という臓器別の6つの診療科に再編成。患者さんをご紹介いただく地域の医療機関の先生や外来患者さんなど、院外の方にも分かりやすい体系となり、「外来診療の効率化と技術の向上」も期待できると考えています。さらに教育病院である本院が、「学生や初期臨床研修医の教育の改善」と「後期専門研修における外科教育の充実」を図る上でのメリットもあります。それは第一外科、第二外科としてではなく、愛媛大学医学部の外科として、3つの分野が協力した教育・研修プログラムを組み、進めていけるという点です。

今後、この新体制を確実に維持していくためには、3分野が緊密に連携することが重要です。定期的に合同ミーティングを開催し、問題点の共有や話し合いを行っています。さらに第一・第二外科の同門会の合併も行い、バックアップ体制の一元化を目指す予定です。



渡部祐司 教授



高田泰次 教授



河内寛治 教授

アメニティの充実で、患者さんにもスタッフにも満足度の高い医療環境へ

愛媛大学医学部附属病院長 横山雅好 医師



コーヒーショップ「タリーズコーヒー」

愛媛大学医学部では、患者さんやご家族、お見舞いの方にとって快適に利用しやすく、また院内のスタッフにとって働きやすい環境を整備するため、アメニティ施設を全面的にリニューアルしました。そのひとつが6月に改装オープンした1号館1階のコンビニエンスストア「あいあい」です。ここはスペースを以前の1.7倍に拡張し、車椅子や松葉杖の方でも通りやすい広々とした通路を確保。店内には「焼きたてパン 媛工房」のブースを設け、目の前で焼き上げたパンを提供できるようになりました。営業時間も7時～21時（土・日・祝は9時30分～）に延長。休憩時間だけでなく勤務時間

の前後にも利用できると、スタッフからも喜ばれています。

また、同フロアにあるレストラン「愛彩館」もイメージを一新し、明るく開放的でゆったりと食事を楽しんでいただける空間に。昼食会議などに対応できる別室も備えています。さらに8月には、多くの患者さんやスタッフからの要望に応じて、コーヒーショップ「タリーズコーヒー」が新規オープン。点字メニューや車椅子の方でも足が当たらないレジカウンターなど細かな配慮が施されていますので、待ち合い時間活用の場として気分転換の場として、様々な利用していただければと思っています。また、職員福利棟も



PROFILE

よこやまさよし◎1975年大阪大学医学部卒業、医学博士。日本泌尿器学会指導医、日本透析医学会指導医、日本腎臓学会指導医。専門は尿路腫瘍。2006年3月から現職。趣味は囲碁と映画鑑賞。

新設。これは院内スタッフの健康管理を目的とした施設で、1階には会議室、2階には産業医と保健師の居室と、男女別の休憩室、女性医師用の休憩室を備えています（患者さんの立ち入りはできません）。

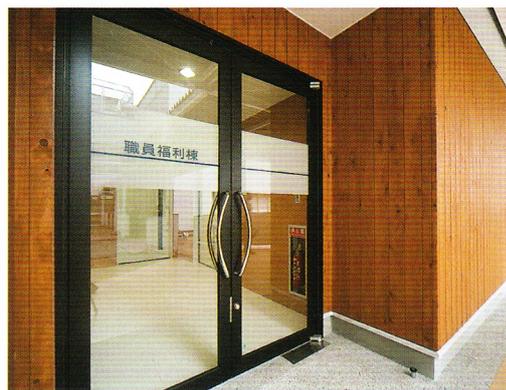
現在、3号館も工事中です。完成予定は平成22年3月で、1階が治験病棟と抗加齢センター、2階が小児外科病棟となり、3階は手術スペースの増設のため手術室2室が設置されます。その他、電子カルテの導入に伴うレントゲンのフィルムレス化を図り、フィルム保管庫として利用してきた空間を別の形で有効利用したいと考えています。



コンビニエンスストア「あいあい」



焼きたてパン 媛工房



職員福利棟

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

第4回愛媛地域医療連携ネットワーク研究会

平成21年9月5日(土)、愛媛県女性総合センターにおいて、愛媛地域医療連携ネットワーク会議主催の第4回愛媛地域医療連携ネットワーク研究会を開催しました。愛媛地域医療連携ネットワーク会議は、本院と人事交流等のある約100箇所の医療機関等を中心に、地域の医療資源が協力することで、患者主役の医療を実現するために昨年設立されたものです。今回のセミナーは、脳卒中患者等へ、急性期から在宅まで円滑に治療・リハビリを行い、自宅であたりまえに生活できるように支援する「地域リハビリテーションネットワーク」構築を狙いとし、講演、パネルディスカッションを行いました。愛媛の今後に向けて話し合いの場を確保すると共に、さらなるネットワーク化の充実や人材育成の重要性が確認されました。

附属病院ボランティア「いきいき会」、松山市福祉協議会長より表彰



献があった個人及び団体に贈られるものです)本院の特徴としては、病院側がボランティアさんの自主性を尊重し、その意見を前向きに検討。それによって活動しやすいこと。独自の組織体として、統率が確立されていること。地元行政の理解を得て、地元の加入者が増加していること。そして最大の特徴は、

附属病院ボランティア「いきいき会」は、平成21年9月3日(木)、平成21年度松山市福祉大会において松山市福祉協議会長より表彰を受けました。(この表彰は地域福祉の推進に多大の貢

メンバー自身がボランティア活動に生き甲斐を感じていることです。現在174名ですが目標数である200名を達成し、患者さんに喜ばれるボランティア活動を続けていきます。

医療サービス室(医療福祉推進チーム) TEL・FAX:089-960-5099

第9回ヘルスアカデミーを開催



平成21年9月12日(土)、地域住民を対象にいよつ高島屋で「がんの痛みを我慢しないで」と題し、緩和ケアに関する講演会を開催しました。講師は、薬師神芳洋腫瘍センター長(内科)、坪田信三助教(麻酔科蘇生科)、園部漢太郎助教(精神科)。それぞれの専門の立場から、がんによって生じる身体や心の痛み、社会的な痛み、スピリチュアルな痛みに対処する講演を行いました。次回は11月23日(祝)、腸に関する病気をテーマに開催します。

医療サービス室(地域医療連携チーム)
TEL:089-960-5182 FAX:089-960-5099

ふれ愛コンサートの開催



平成21年8月27日(木)、外来ホールにおいて院内ボランティア「いきいき会」が中心となり、ふれ愛コンサートを実施しました。今回は、職員によるトーンチャイムの演奏やボランティアメンバーによるハーモニカ演奏、絵本の読み聞かせの他、プロを招いてのサクソホン四重奏が披露されました。トーンチャイムやハーモニカの優しい音色で癒され、サクソホンの活気ある演奏で盛り上がり、バラエティに富んだ演目で、会場の患者さん大変喜んでもらうことができました。

医療サービス室(医療福祉推進チーム)
TEL:089-960-5099

編集後記

みなさん今日は、愛大病院の外科は再編成によって強力な新体制になりました。愛媛県の方々にとって、ますます頼られ信頼される外科学大講座のスタートです。一方、病院は多くの患者さんと職員が日常的に“生活する”場となることから、アメニティーの向上も重要です。コンビニエンスストアやおしゃれなコーヒーショップの並ぶアーケードも出来上がりました。大学病院を街に変える。そのことで、患者さんが最高レベルの医療に気安くアクセスできる場が出来上がっていくと思います。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長 檜垣實男

◎表紙の人
河内寛治教授(左)
高田泰次教授(中)
渡部祐司教授(右)
— 外科スタッフステーション内にて —



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel.089-964-5111(代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>